

## 新會長二博士

土木學會本年度會長として、工學博士名井九介氏、副會長として工學博士大河戸宗治氏が、何れも多數會員の推薦に依り當選せられた。

名井博士は内務省系の河川技術に關し功勞者で、白髮童顔、相變らず元氣な老博士組の一人である。

大河戸博士は鐵道技術界の功勞者で、溫厚篤實な學者である。

兩博士の溫容と天真さには我等も永く親しんでゐる、會長期間は僅に一ヶ年に過ぎないが、名譽ある學會の爲に、今此の二博士を迎へて欣快に堪えず、特に其御健在を祈るものである。

## 退任の二博士

總ての方面が萎微不振なる際に、學會のみ振興する筈はないが、我が土木學會の總會に於て其機運を見るに、必ずしも前途悲觀の必要はない

會員數も前年と大差なく、収入に於て多少減じたりとするも大局に關する程の問題ではない。今回那波博士及び眞島博士の退任に際し、我々の最も感謝しなければならぬ事は、鐵筋コンクリート標準示方書發表の件である。其の示方書解説の如きは日本の學會物としては、實に上々の出來榮と言ふべきである既に此の示方書は各方面の工事施行に實用せられ、眞に權威あるものとなりつゝあるは、工業發展根本問題實行の一として、國家の爲に欣幸至極である。

## 若き技術家を呼ぶ會長の言

那波光雄博士は一月十六日の土木學會會長講演に於て、實に廣大なる技術經論を述べられた。博士が多年のの經驗から若き技術家に

呼び掛けた言であるが、一般我國の現状に對し切實無比の注告である。

若き技術家時代に唯漫然として、技術に對するものは、何年経つても進歩しない、と先づ一針を與へ、次いで

業務の大小に關せず熟練する事

正しき判斷の資料を蒐める事

調査を完全にすること

特種の設計は調査機關に掛ける事

構造物は特に基礎の地質ボーリングを完全にすること

研究機關の振興

鐵道廣軌問題の根本調査

航空機と自動車交通の調査

等に就て歐米の例を執り、先輩技術家の如何に調査研究に熱心なりしかを説き、其結果が今日の文化の基礎を成せらる所以を説き、大なる感銘を與へた。

實際に、國歩困難なれば益々以て技術家としての使命は大なるものがある。會員は各自に研究努力を積むと同時に會長の言をして徒らに空言たらしむる事なく、眞に社會に對し權威あるものたらしめねばならぬ。

## 實際問題を中心として

從來、學者は屯角實地に迂遠なるものとして敬遠せられ、其の所論は卓上の名論として放送されたのみであるが、今日に於ては實行を伴はざる名論なく、實際問題に觸れざる研究はなくなつた。

特に土木學會總會に於て老大家が何れも、後進を勸迎し、青年技術家の言を聞んとするの傾向と、後進者の爲の發展を希望しつゝあるは、先輩と後進者との間の美しい情況である。此の情勢は、土木學會の中心事業其ものが、何れも實際的研究問題に觸れつゝあるが爲であつて、若し學會の事業が實際技術を離れたならば、先輩後進の關係も形式的なものとなつて了ふであらふ。